

2002年3月の初版発行以来版を重ね、2007年の「第4版」改訂から2年半ぶりに「第5版」発行の運びとなった。この間、管理栄養士・栄養士をめぐるさまざまな動きの中で記憶に留めたい出来事として、2008年9月に国際栄養士会議が横浜で開催され、6,000人もの世界の栄養士が集ったことであろう。この会議では栄養士の職業倫理が取り上げられ、国際標準化された倫理綱領の在り方について熱心に議論がおこなわれた。臨床分野で活躍する管理栄養士・栄養士は疾病や障害と闘う人々に対して、栄養や食の視点から支援をおこなう専門職としての倫理観を共有することは基本的な責務といえる。

また、近年の管理栄養士・栄養士に関連した医療制度の変化は著しい。とくに特定健診・特定保健指導が開始され、この分野の管理栄養士の役割が明確になったこと、栄養管理実施加算の導入から臨床分野の栄養業務が大きく変化したことは特筆すべきである。

今回はこれらを踏まえて、学生諸君が学生の間に基本的な職業倫理観を養えるように配慮すること、および臨床分野における栄養マネジメント業務の遂行能力を養えるような学習がおこなえることを主な目的として、大規模に改訂することとした。

その内容は、「栄養食事療法」の基本構成を、①栄養食事療法の基本、②栄養アセスメント、③栄養管理計画、④栄養食事指導・生活指導、⑤モニタリングと評価、と実際の栄養マネジメントに沿うように改めたことである。

さらに診療報酬の改定（平成21年）と介護報酬の改定（平成22年）に対応することにより、入院時食事療養制度、診療報酬における管理栄養士の技術評価、介護報酬における栄養ケアマネジメントに関する最新の情報を盛り込んだ。

また、①高血圧治療ガイドライン2009、②CKD（慢性腎臓病）診療ガイド2007、③慢性腎臓病に対する食事療法基準2007、④動脈硬化性疾患予防ガイドライン2007、⑤糖尿病治療ガイド2008-2009、⑥慢性肝炎の治療ガイド2008、⑦食物アレルギーの栄養指導の手引き2008、⑧日本人の食事摂取基準2010年版、⑨特殊ミルク情報44号（2008）、⑩標準的な健診・保健指導プログラム（確定版）2007、など最新ガイドラインや最新情報に準拠させた。

今後も本書が時代の流れに沿ったものとなるように必要な改訂をおこないながら、より充実した臨床栄養学の教科書となるように努めていく所存である。

2009年8月

補訂の序

増刷にあたり、糖尿病治療ガイド2010、高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン第2版（2010）、CKD診療ガイド2009、特殊ミルク情報45号（2009）、また、平成22年4月より施行された栄養サポートチーム加算などの最新情報をそれぞれの項目に反映させた。

2011年2月

編集者一同